

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372900904
法人名	有限会社 沙蔵
事業所名	グループホーム花音
訪問調査日	平成 20 年 8 月 23 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 26 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4372900904		
法人名	有限会社 沙蔵		
事業所名	グループホーム 花音		
所在地 (電話番号)	熊本県八代市氷川町宮原588番地2 (電話) 0965-62-2518		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成20年8月23日	評価確定日	平成20年9月26日

【情報提供票より】(20年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 11 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 11 人, 非常勤	人, 常勤換算 6.6

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	鉄骨軸組工法 造り	
	2階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<u>有</u> (円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (80,000 円)	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月17日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	72歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八代郡医師会立病院 前田内科医院 坂本病院 上田歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員の定着率がよくなり、管理者がケアマネジャーの資格を取得したことにより安定した介護サービスの提供ができています。事業所の特徴として利用者の文化活動(音楽)を支援し、発表の機会(他の事業所や行事等)を作っている。利用者・家族との絆も強く、利用者・家族、地域事業所が共に支え合う関係が徐々に構築されている。今後の課題はケアプランから個別計画、記録を全職員が把握し活用できるよう整備されることです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の定着率の問題があったが、管理者がケアマネをとり安定した状態となっている。介護職の定着率も良くなっている。余裕をもって勉強会に参加できるようになっているため次のステップになるよう期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員全員が評価項目を検討し、見直しの機会となった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の運営推進会議が開催され議事録の内容も具体的に検討されている。1月に1回の広報にも内容報告等がなされていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の開催、日頃の広報、御見舞時の面接と日頃より家族の声を聞く体制作りがなされている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者が地域の役員をかってで、役員会や行事に利用者と共に参加することで、地域交流が徐々にできている。また、事業所前の神社散歩が地域の方々との交流の機会になっている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念を地域のなかで班長という立場を通して理念を普及するようにされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングや利用者のテレビ鑑賞中に理念を通じ、職員との話し合いをされている。職員も地元の人を採用することが理念に通じると考えておられる。各事業所での介護教室の開催を通じて地域に理念がわかるように努力されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の班活動や役員等を引き受け、率先して行事に参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の勉強したいという声や意欲の向上がみられるようになり定期的な勉強会をするよう働きかけられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。運営推進会議以外にも随時地域住民との話し合い等もされている。	○	日々行われている花音の活動を年に1回まとめる事や運営推進会議の会議予定を決め年間行事のなかに取り組まれるといいでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	様々なことを市町村に相談され、市町村の福祉委員もされており、認定審査会のメンバーもされるなど市町村との連携はなされている。	○	介護の日が制定された11月11日が事業所の開設日と同じという励みをこれからの介護の喜びに活かしてください。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族交流会を通じたり、面会時に報告がされている。また、広報誌が月1回発行されグループホームの状況を報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談はいつでも受ける体制をとられている。意見箱は設置されているが意見箱に入る前に日々の生活のなかで苦情をくみ取るようにされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年異動はほとんどない。新入スタッフが夜勤に入る時は管理者が1ヶ月は付くようにされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修会に参加することができるよう取り組まれたり、運営者の妻が職場の親睦会に参加し職員が働きやすい状況になるよう意見を吸い上げるようにされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のサービス事業所に働きかけて連携がとれ介護教室を開催されている。また、24時間テレビの募金活動を行うことで利用者の社会参加になるよう配慮されている。管理者が行っている音楽演奏活動に利用者の方を伴い同業者へ年に4～5回いかれ交流を図るようにされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験はいつでも可能だが体験希望はない。見学は随時行われている。	○	待機者が多いとのこと。待機者がいざ入居となった時にすぐに馴染める対応を検討されるといいでしょう。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話の中で利用者に尋ねたり、教えて頂くことも数多くあるとのこと。また、地区のお世話役に利用者の知恵をかりることもされている。今月の目標を利用者に考えていただき、毎日の活動に活用されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者にアンケートを取ることや、利用者との交換日記、面談、本の提供等を通じて思いを把握するのに様々な事を検討され、本音で取り組むことができるように努力されている。	○	どの方法がいいのか1人1人によって違うと思います。その違いの実現を期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフみんなで話し合いながら作成するようにされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは定期的に行われているが、スタッフ全員に計画の浸透がない。	○	日々の生活とケアプランそして日々の活動が連動するような利用者本位の介護計画の作成が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症の介護教室を提供されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得ながらかかりつけ医への受診支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	地域の主治医等の協力を得ながらグループホーム内での看取りが行われたこともある。	○	今後看護師を雇用するか検討中とのこと。終末期の対応システムと調整しながら検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけ等の配慮はされている。利用者1人1人が9人の家族として生活されている様子が伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務上でフリーのスタッフを1人配置され、1人1人の要望に添うよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みんなが揃って食事を楽しむよう配慮され、後片づけも協力しながら行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決められていないが、夜間入浴はない。馴染みの関係のなか1人1人に応じた声かけがされている。また、週3回は入浴できるよう計画されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中や、イベント行事などその人に応じた役割や楽しみを支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日毎くらいに買い物や散歩等何らかの形で外出する支援がされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関の鍵かけが行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ポンプ車が出動した訓練や時間確認等もされている。一次避難場所も決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1400Kカロリー、水分1リットル摂取と標準が設定されている。	○	体操や音楽でむせがすくなくなったり、トロミをつけていた人が必要がなくなったりする事もみられています。より一層の継続を期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着きと安定感のある共有空間作りがされている。そのためか居室で過ごすよりリビングで過ごされている利用者の姿が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人1人の希望、要望にあった居室の配慮がされている、時には家族の協力も得ながら居室の様様替えをされている。		